

## 編集後記

会報 14 号を発行いたしました。今号はこれまでとは異なり、特別寄稿と特集「農学教育の現場から」と題して、会員外の方々をお願いして原稿を書いていただきました。お引き受けいただきました著者の方々に、心よりお礼申し上げます。皆様ぜひお読みください。

特別寄稿をお願いした宮寫和男氏は、永年、科研費を中心に学術の振興に尽力されてきた方で、現在は、私が監事をしている（独）日本学術振興会の学術システム研究センターの審議役をされています。科研費等の制度に大変詳しいことからセンター研究員（大学等の研究者の 3 年任期の非常勤職）の知恵袋的存在です。農学分野の主任研究員の時代から、私も大変お世話になっています。今回快く、永年取り組んでこられた科研費について書いていただき、感謝しております。

また特集「農学教育の現場から」は、現在、全国農学系学部長会議の会長をされている生源寺眞一先生に、企画をしていただきました。「農学教育の現場からの声」を聞くことが、農学アカデミーとして、これからの農学の在り方を考える原点になるのではと思ったからです。とくに現在の農学・農業を背負っている若手の意見も加えていただきました。いずれの原稿も大変示唆に富んだ内容で、大変勉強になりました。ありがとうございました。

ところで東大農学部と一高の校地交換が行われた 1935 年、式典後 1000 人程の一高生が隊列を組んで本郷通りからお茶の水駅脇を通り、皇居前広場で整列して皇居を遙拝し、青山、渋谷を経て駒場まで 3 時間半かけて行進したのをご存じですか？東大を退職した 4 年前に同じ道を歩いてみたところ 3 時間で行けたのに気をよくして、今年は 5 回、農学部から駒場の教養学部まで歩きました。特に 3～5 回目は一高生の辿ったルートとは異なり、農学部から言問い通りを経て後樂園脇を通り、飯田橋から四谷まで外堀通りを歩き、迎賓館脇、権田原、神宮外苑から青山通りへ出て、渋谷駅脇から教養学部までと試したところ、約 2 時間半で行くことが出来ました。おそらくこれが最短ルートでしょう。移転時、

一高生は弥生と駒場で式典を行っていますが、農学部は式典をしたとの記録は無いようです。一高生の行進の様子も映像として残されているのに、何もしなかったのは何故でしょうか？

駒場からは家内の実家のある笹塚まで、かつての三田上水の傍を、さらに40分ほどかけて歩くのが通例です。ところで、笹塚で玉川上水から三田上水が取られ、駒場農学校の北側通りを経て、渋谷川と目黒川の分水嶺の上を通って三田まで通水されていたことをご存じですか？白金台に当時の遺構のごく一部が残されています。

今年末で、日本農学アカデミーが発足してから丁度12年が経過しました。そこで来年6月発行予定の会報15号では、特集として「日本農学アカデミーの12年」(仮題)として、会員諸氏に発足当時の思い出や今後のアカデミー活動への提言等を書いていただき掲載したいと思っています。会員諸氏のご投稿をお待ちしています。来年5月中旬頃までに原稿をいただければ幸いです。

(総務・企画担当 會田勝美)